

土木法規 (Administrative Law of Civil Engineering)

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担当
土木建築	選択	5年後	1	講義	大成博文

【授業の概要】

土木行政、土木と法律、土地と国土、自然公物、公害と環境、防災に関する土木法規を概説する。同時に、国土開発法、公害環境法等に関する自主研究を行い、それを発表する。また、河川法に関する歴史の変遷を解説する。さらに、技術者資格について知るとともに、これらを取得することを目指す動機付けを行う。特許法を解説し、具体的なアイデアづくりおよび明細書づくりを行う。

【授業の進め方】

土木法規の基礎知識に関する講義、国土開発法、公害環境法に関する自主研究、レポート作成とその発表会、河川法に関する歴史的検討の解説等を行う。技術者資格の実際を解説する。知財構築の重要性を示し、各自のアイデアを抽出し、特許の明細書作りを実際に行い、それを踏まえて発表会も行う。

【授業の概要】	【授業項目】	【内容】
1回	授業ガイダンス・土木法規の体系の概説	授業の進め方と土木法規の体系と法律論の基礎を概説する。小テスト1
2回	土木法規の基礎知識とキーワード	土木法規の基礎と重要キーワードを解説する。小テスト2
3回	課題研究（国土開発法、公害環境法の説明）の説明、テーマの選択	年代区分を行いながら、戦後の国土開発の特徴を概説する。それらと国土開発法、公害環境法の関係について調査研究する課題を提示する。
4回	課題研究における資料収集と調査研究	年代ごとに選択したテーマに関する、インターネットなどを利用して資料収集を行う。また、その結果をもとに分析を行う。調査研究報告書の概要提出。
5回	課題研究におけるレポート作成	調査研究報告書をレポートしてまとめ、提出する。
6回	戦後の河川法の変遷と新河川法改定の意義、特徴	戦後における3回の河川法改定の変遷と体系、改定の意義を概説する。小テスト3
7回	河川法における問題点と課題	河川法における問題点と課題を具体的に検討し、レポート作成のための作業を行う。
8回	中間試験	土木法規の基礎知識、国土開発法、河川法に関する試験を行う。
9回	知財とはなにか、特許とはなにか	知財創造サイクルの構築、知財構築（特許）の重要性について解説する。特許明細書の解説。小テスト4
10回	アイデア探し、アイデアの抽出 明細書の基本骨格決定	アイデアの分野、アイデアの抽出法、選択法、決定法を習得する。明細書の基本骨格の具体的検討。
11回	アイデアの決定、明細書の作成 決	決定したアイデアの新規性、問題解決性、有用性、実現可能性などを検討し、明細書に書き入れる。レポート提出
12回	明細書の検討 1	明細書の各項目に関する具体的な検討を行う。請求項の検討。
13回	明細書の検討 2	明細書の検討。請求項以外の項目の検討、図面の検討。
14回	明細書のまとめ	明細書の内容を具体的に検討し、最終的にまとめる。明細書の提出
	期末試験	許法、明細書の書き方などについての試験を行う。
15回	解答返却など	試験の解説と1年間の総括。

【到達目標】

土木法規の基礎知識と重要キーワードを習得する。同時に、国土開発法、公害環境法に関する自主研究を行い、国土開発と法律の相互関係を理解する。河川法の変遷と意義を理解する。技術者資格の意義と重要性を理解する。知財（特許）の構築と実際の特許明細書づくりを通じて、知財創成の重要性を知るとともに、特許申請ができるようになる。

【徳山高専学習・教育目標】

C 1

【J A B E E 基準 I(1)】

d - 2 a

【評価法】

試験（50％）、小テスト（10％）、レポート（明細書を含む）40（％）で評価する。

【テキスト】	なし（プリント配布予定） 参考図書 土木法規の知識 石井一郎著 鹿島出版会 書いてみよう特許明細書 特許庁
【関連科目】	環境衛生工学（5年）、河海工学（5年）
【成績欄】	前期中間試験 前期末試験 前期成績 後期中間試験 後期末試験 学年末成績 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】